

解離性同一症（DID）に対するトラウマ焦点化療法実施についての検討

-NET（ナラティブ・エクスポージャー・セラピー）を用いて-

○ 荒川 和歌子 1)、 野呂 浩史 2)

南平岸内科クリニック 臨床心理部門 1)、 南平岸内科クリニック 精神神経科 2)

【目的と方法】トラウマを抱えたクライアントに対する治療の重要性は、昨今ますます高まっている。特にクライアントに解離症状が強く認められる場合、解離との兼ね合いが治療上の難局となることは各種トラウマ焦点化療法のトレーニングにおいて強調される点である。また解離症の専門家の間でも、解離症の治療に何らかのトラウマ焦点化療法（技法）が必要なのか否かについて議論がなされている（日本解離研究会 2024 年次研究会）。本発表では解離性同一症（DID）患者に対してトラウマ焦点化療法（ナラティブ・エクスポージャー・セラピー：NET）の実施を試みた例を、①NET の実施中に DID が明らかとなった症例、②DID 患者が NET の実施を希望して導入した症例の 2 つのパターンに分けて考察した。DID 患者にトラウマ焦点化療法を用いる際の問題点やその効果について検討することを目的とした。